



LaKeel



# Business Report Vol.1

2021.1.1 ▶ 2021.12.31

株式会社ラキール 証券コード:4074

『真のDXパートナー』を目指して

企業向けシステムの課題である「技術的負債」を解消

**LaKeel DX**でサステナブルソフトウェアというテーマに挑戦

ソフトウェアを部品化、最新化し「技術的資産」に転換

DX投資の世界に革新をもたらす



平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

当社は、クラウド型デジタルビジネスプラットフォーム「LaKeel DX」で、デジタルとビジネスのより良い関係づくりを実現し、「明日の日常を創り出す」ことを目指しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも、より一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 久保 努

## Our Company Target 『企業のIT投資効率の最大化』

買った時は高かった車も、使っているうちに劣化し、壊れ、いずれ買い換えざるを得なくなります。大企業が使っているITシステムもこれと同じ、ということをご存じでしょうか。何年も何億円もかけて開発した自社システムが10年足らずで技術的負債となり、会社はまた何億円もかけて新しいシステムを開発する。これが現実です。IT業界に身を投じた時から、私はこの事実に違和感を覚えていました。

「そんなお金があったらもっと本業が伸ばせるじゃないか。もっと効率良くできないのか。」これをずっと考えてきて、私はある時「車のライトが切れたからと言って、車ごと捨てる人はいない。ライトを交換すればまた乗れる。」というあたりまえのことに気づき、ソフトウェアを部品化して企業のシステムを構築すれば、無駄のないものが作れるのでは、と考えるようになりました。

そして約20年、ソフトウェアを部品化することを考え続けてきました。実は、この考え方自体は目新しいものではなく、過去に何度も色々な方法で試みが行われて

きましたが、どれも上手くいきませんでした。技術的な難易度が非常に高かったのです。しかし昨年「クラウド」が急速に普及したことで、「マイクロサービスアーキテクチャー」はエンタープライズ向けシステム開発技術として再度注目を集め、実用可能なレベルにまで発展しました。この2つは、システムを部品化するのに極めて重要な要素であり、「機は熟した」と感じました。

今こそ、念願だった「ソフトウェア部品を組み立てるだけのシステム開発」を実現する時、そう決心した私は2017年、この会社を、それまでのシステムインテグレーターから製品サービスベンダーへと大きく舵を切りました。そして2019年、現在の「LaKeel DX」をリリースしました。このLaKeel DXは、これまでのエンタープライズ向けシステム開発のあり方にパラダイムシフトをおこす他に類を見ない製品です。我々ラキールは、LaKeel DXを武器に、企業のIT投資の価値を最大限に高める提案をし続けてまいります。

# LaKeel DXでサステナブルソフトウェアを実現

## LaKeel DXとは？

「エンタープライズ向けシステムの開発／運用基盤（プラットフォーム）」です。システムに必要な機能を全て部品化し、既にある機能部品は再利用し、不足している機能部品のみ新たに開発する、という考え方（仕組み）を持っているので、システム開発にかかる期間と費用を大幅に削減することができます。



## システムの刷新が不要に

部品は、「LaKeel BI」（データ分析）や「LaKeel HR」（戦略人事）のように、そのまま業務で使えるソフトウェア製品（2022年3月時点で12製品）として販売しているものもあります。小さな機能部品（単一の機能）から大きな機能部品（ソフトウェア製

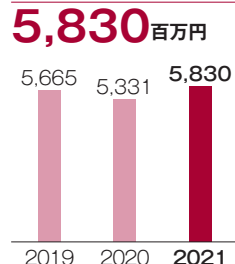
品）に至るまで、LaKeel DX上では常に最新の状態が保たれるので、顧客企業はいつでも最新の機能に取り替えたり、新たな機能を追加することができるため将来的にビジネスが大きく進化した場合でも、システムを作り直す必要がありません。

## 運用コストを抑え、IT投資効率を最大化

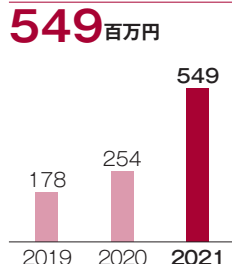
大手企業のITにかかるコストのうち、実はその殆どがシステムの「運用」にかかるコストです。しかし部品の追加や交換だけで済むのであれば、この運用コストも大幅に削減することができます。LaKeel

DX上で開発・運用されるシステムは「サステナブル（いつまでも使い続けられる）ソフトウェア」を実現することで、顧客企業に対して機能・コストの両面から圧倒的に効率的なIT投資を提供します。

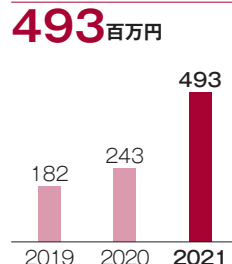
売上高 (単位: 百万円)



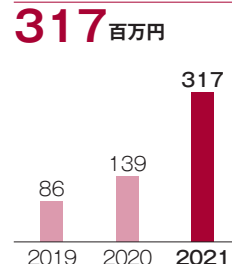
営業利益 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)

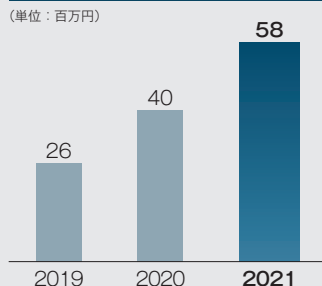
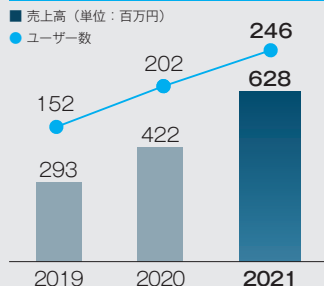


親会社株主に帰属する  
当期純利益 (単位: 百万円)



昨今の国内経済の動向として、「ウイズコロナ」に適したビジネス形態への移行の必要性が認識され、企業のDXへの関心が一層高まりつつあります。このような環境下、当社グループ2021年12月期の連結業績については、次世代クラウド型デジタルビジネスプラットフォームLaKeel DXを中心とした関連サービスを拡充、企業のDX化を積極的に推進することでプロダクトサービスの高い成長を実現し、連結売上高について業績予想の達成ができました。また利益面においても、売上高の拡大に加え、人材採用費等、コロナ禍での諸施策見直しによる販管費抑制の効果もあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益全てについて、業績予想を大きく上回ることとなりました。

■ LaKeel製品サブスクリプション



※ LaKeel製品には、DX、BI、HR、Commerce、Online Media Service、Data Insight、Messenger、My Number、Stress Check、Process Managerが含まれます。  
 ※ 売上高は各期の年間の合計、ユーザー数は各期末時点での数値です。  
 ※ MRR(月間経常収益)は各期四半期売上高を3で割って算出しています。

■ 2022年業績予想



## 日系大手10社共同出資の株式会社トレードワルツ様に、 貿易DX早期実現へ向け **LaKeel DX** を導入いただきました 貿易実務全体の44%の業務効率向上、1,320億円のコスト削減へ

### 貿易実務の課題

- 貿易には荷主や銀行、保険会社、税関など関係者が複雑に絡んでおり、取引の際に発生する手続きが多岐にわたる。
- データ改ざんのリスクや取引の仕組みの複雑さから、実務の多くは”書類”や”PDF”による非効率的なコミュニケーションが主流。
- 膨大な量の貿易データに迅速に対応するうえで、圧倒的な人手不足が課題。
- コロナ禍において出社ができず書類処理が遅延することで、輸出入停滞のリスクも露呈。

### 貿易業務を完全電子化することにより大幅に改善

#### 貿易プラットフォーム



#### 信頼性を担保するための「ブロックチェーン基盤」を活用

(株)NTTデータ 東大協創プラットフォーム開発(株) 三菱商事(株) 豊田通商(株)  
(株)TW Link(兼松JV) 東京海上日動火災保険(株) 三井倉庫HD(株)  
(株)日新 (株)三菱UFJ銀行 損害保険ジャパン(株) の共同出資により構築



#### 日本発の貿易DX「Trade Waltz」の展望

「ブロックチェーンにより完全電子化された新しい貿易エコシステム」によって、全ての人に必要なのが、地球と人に優しい形で、安全・安価・迅速にオンデマンドで届けられる豊かな未来作りを目指す。「TradeWaltz」をオールジャパンで成長させ、日本からアジア、そしてグローバルな貿易DXの実現へ。

#### デジタルビジネスプラットフォーム



#### 採用された4つの理由

1



社外システムとの  
連携

2



プラットフォームの  
拡大に即応

3



ユーザーニーズの  
変化に順応

4



新規ビジネスの  
創出

## 総務省後援『ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2021』にて、 当社のSaaS型人事統合システム「LaKeel HR」が受賞

～ 基幹業務系ASP・SaaS部門に  
おける「奨励賞」に輝く～

一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoTクラウド産業協会(略称: ASPIC)は、総務省などの後援により、日本国内で提供されている優秀かつ「社会に有益」かつ「安心・安全」なクラウドサービス等の表彰を行っています。各賞は各分野の有識者により審査が行われており、2006年以来、2021年で第15回目の開催となりました。



### 会社概要と株式の状況

#### ■ 会社の概要 (2021年12月31日現在)

社名	株式会社ラキール
設立	2005年6月10日
資本金	1,011,888,855円
事業内容	企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援するプロダクトサービスとプロフェッショナルサービスを提供
従業員数	連結：450名
所在地	〒105-6233 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー33階
主要関係会社	Legend Applications China Holding, Inc. 北京利衆得応用技術有限公司 株式会社ZEST

#### ■ 株式の状況 (2021年12月31日現在)

発行可能株式総数	25,000,000株
発行済株式の総数	7,580,500株
株主数	1,909名

#### ■ 大株主 (上位10社/名)

株主名	保有株数(株)	保有比率(%)
久保 努	3,400,000	44.85
ラキール従業員持株会	775,500	10.23
KST有限責任事業組合	680,000	8.97
平間 恒浩	300,000	3.95
株式会社Kコーポレーション	245,600	3.23
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	192,200	2.53
野村證券株式会社	177,000	2.33
住友生命保険相互会社	140,000	1.84
川上 嘉章	129,300	1.70
西村 浩	125,000	1.64

(注) 持株比率は自己株式(48株)を控除し、計算しております。